

【緑区】平成 28 年第 1 回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	平成 28 年 2 月 8 日 午後 2 時 30 分 ～ 午後 3 時 45 分
場 所	緑区役所 第 5・6 会議室 (ピコ中山)
出席者	<p>【座 長】高橋 正治 議員</p> <p>【議員：3 名】伊藤 大貴 議員、今野 典人 議員、斉藤 達也 議員</p> <p>【緑区：29 名】名取 正彦 区長</p> <p>山本 敏昭 副区長</p> <p>宮口 廣隆 福祉保健センター長</p> <p>南 有里 福祉保健センター担当部長</p> <p>村田 守廣 土木事務所長</p> <p>ほか区関係職員</p>
議 題	1 平成 28 年度 個性ある区づくり推進費 予算案
発 言 の 要 旨	<p>1 平成 28 年度 個性ある区づくり推進費 予算案</p> <p>(区長、副区長説明)</p> <p>【1 災害に強いまちづくり事業】</p> <p>斉藤議員：地域防災拠点の備蓄資機材の拡充は、具体的にはどのような進め方か。</p> <p>天下谷総務課長：22 ある各拠点にアンケートを取り、ご提案のあった簡易トイレなども含めた数種類の中から各拠点に必要なものを選んでもらい、配布する方法を考えています。</p> <p>斉藤議員：ヒアリングはこれからか。</p> <p>天下谷総務課長：そうです。27 年度中にアンケートを実施し、28 年度に機材を指定していただこうと思っています。</p> <p>斉藤議員：各拠点の現場の方々とよく打ち合わせをして、効果的な拡充をしてほしい。</p> <p>【4 暮らしの衛生推進事業】</p> <p>斉藤議員：人と動物との共生事業のなかに、災害時のペット対策啓発を特筆したことは評価したい。ペットを飼育する家庭も増えているので、獣医師会とも連携して、ネットワークを構築することも必要だ。中山地区で行った同行訓練をぜひ他の拠点でも実施してほしい。また、手洗い、食品・飲料水、トイレの衛生、防虫対策等の啓発も地道だが大事なことだと思っている。</p>

【8 あんしん子育てネットワーク事業】

斉藤議員：区内に地域ケアプラザが6か所あるが、山下地区には無いため、同じサービスが受けられないのではないかと。

宮口福祉保健センター長：山下地区は、中山地域ケアプラザのエリアになりますが、高齢者の相談については、いわゆる在宅介護支援センターの特別養護老人ホームふじ寿か園が対応しています。

斉藤議員：プレパパ、プレママ教室は、ふじ寿か園では実施しないのか。

宮口福祉保健センター長：6か所のケアプラザで開催しています。

斉藤議員：なぜ、山下地区にケアプラザがないのか。

宮口福祉保健センター長：介護保険制度が始まる前に、横浜市で地域ケアプラザの整備計画を策定した際に、エリアによっては、特別養護老人ホームの在宅介護支援センターの協力をいただくことになりました。健康福祉局と各区でエリアと整備数を決めたときに、緑区についてはケアプラザ6か所のうち、1か所を特別養護老人ホームの協力でカバーすると決まった経緯があります。

斉藤議員：中山地域ケアプラザの範囲は広大であり、基本的には中学校区に一つという方向性も聞いている。緑が丘中学校の通学区域は青葉、緑の両区にまたがっているが、必要な施設はきちんとつくるという方向性を持つべきである。

【9 保育所すこやか子育て支援事業】

斉藤議員：新規事業の子育て支援事業施設連絡会は、今までやっていなかったのか。

山本こども家庭支援課長：保育園の園長会では、意見交換されているが、改めて子育て支援事業だけをテーマにして集まることで、新規事業として実施しようと思っています。

【11 中学生等キャンパスチャレンジ事業】

伊藤議員：こういう事業はぜひ進めてほしいが、実際にどの大学とどういうテーマでやるのか、どこでどういう調整をしているのか。

坪内学校連携・こども担当課長：区内の東洋英和女学院大学、横浜商科大学、横浜創英大学の3大学と個別に調整しています。学生あるいは大学教職員の地域貢献として、できるだけ地域と連携して事業に取り組みたいという大学側の思いと、中学生の体験を充実させたいというこちらの思いを合致させ、大学から中学校に幾つかメニューを提示していただいている段階です。

伊藤議員：区内には、東工大を含めると4つの大学という資産がある。昨

年長津田小で、東工大の大学生が理科授業を行っており、大学も社会貢献を考えている。他の小学校でもどうかと賀詞交歓会でPTA会長と話題になった。限られた予算では難しいかもしれないが、ぜひ進めてほしい。

【18 高齢者あんしんサポート推進事業】

齊藤議員：徘徊高齢者SOSネットワーク推進事業の現在の登録者数は。門脇高齢・障害支援課長：27年度新規登録者数21名を加え、27年12月末現在で、83名です。

齊藤議員：徘徊の目撃情報を共有するためにも、商店街、地域の事業者、福祉関係等と協力し、警察とも連携して今後強化するべきである。

高橋議員：徘徊者の発見を前提とした議論だけではなく、GPSの活用等を区づくり推進事業において研究する必要があるのではないかと。

今野議員：水道事業者から認知症の方がトイレにいろいろなものを入れてしまい、詰まりの解消にかなり費用がかかる話を聞いた。今ではその問題に対応した新しいトイレが開発されているそうだが知られていない。認知症に関する支援として、ぜひいろいろな役立つ情報を提供してほしい。

【19 障がい者自主製品販売支援事業】

齊藤議員：障害者自主製品販売を改めて新規事業としてやるのはなぜか。門脇高齢・障害支援課長：障害者の作業所等が区役所や地下鉄コンコースで販売をしていますが、不定期、品揃え不足といった理由で、なかなか売り上げが上がらないのが現状です。商品の幅を広げ、販売活動を通じて障害者と区民の方が直に接することで、障害者への理解を深め、障害者の社会参加や生きがいをづくりの支援になればと考えています。

齊藤議員：共同販売の推進のようなものか。

門脇高齢・障害支援課長：はい。

齊藤議員：商品のラインナップの調整は可能か。

門脇高齢・障害支援課長：作業所ごとに障害者の力量も異なるので、専門家の支援のもと、既存商品のグレードアップ化、定期的な売り場の確保、品揃えの充実、ディスプレイの工夫などを支援していきたいと考えています。

齊藤議員：緑区内の施設限定か。

門脇高齢・障害支援課長：区内に限定して考えています。

齊藤議員：都筑ではショコラボという、職人が障害者に指導して大変おいしいチョコレートを作り、新横浜の新幹線の売店等で全国的に販売している例がある。障害者が作っているから買うというのではなく、商品力で選んでもらえる目玉商品が生まれると一番良い。アレルギー対応のように商品に付加価値をつけて商品力を上げる取組をしてほしい。

伊藤議員：販売の窓口はどこか。区役所、またはお祭りなどのイメージか。
門脇高齢・障害支援課長：現在販売している区役所と地下鉄コンコースから充実させて、今後さらに展開していきたいと思っています。

伊藤議員：文化観光局が区内周辺にクリエイターの集積をやっているので、その人材を作業所にコーディネートし、一般の方が手に取って買ってみたいと思えるようにデザイン性を高める等、これまでの市の施策と連携することも考えてほしい。

【21 次世代プロジェクト】

齊藤議員：「冬のたからものづくり」等の子どもを主体としたイベントだけでなく、老若男女の区民に新しい区役所や公会堂に来てもらえる取組が必要だと思うが、何か考えはあるか。

名取区長：新しくなった区役所に来ていただく試みとして、整備されたイベントスペースを活用したいと思っています。現在は、サークルの写真展示等を行っていますが、今後は、みどりアートパークと連携して市庁舎のようなロビーコンサートなどの定期的な催しを検討していきたいと思っています。

齊藤議員：才能のある緑区民の方を、緑区遺産の人物版としてぜひ発掘するとよい。

【23 みどり！まると応援事業】

齊藤議員：緑区遺産の登録は何件か。

鵜田区政推進課長：現在8か所です。

齊藤議員：まだ少ないので、区政50周年を迎えるにあたって50か所を目指す意気込みでやってほしい。長津田の横浜線の石積みのように、専門家には大変価値があっても地元の人に実感がないものもある。そういった緑区遺産の候補地を区役所や連合町内会が集めれば、登録も増えていくのではないか。

伊藤議員：次年度の予算で、政策局が横浜市の歴史遺構の調査費を計上している。緑区の遺産の価値に地域や行政が気づいていない可能性が高いので、ぜひ緑区からも、とりあげられるように政策局と連

携していくよう要望する。

『農』の魅力動画配信事業は既にやっているのか。

鵜田区政推進課長：本年度、地場野菜を使った料理の動画を2本制作しているところです。

伊藤議員：ホームページには、まだないのか。

鵜田区政推進課長：3月に完成します。

伊藤議員：この事業を含め動画の配信は、区役所の待合スペースのような多くの人の目に自然に入る場所でやってほしい。特に『農』は、緑区を特徴づける大きな項目になるのでアピールしてほしい。

今野議員：緑区の魅力をもっと区外にも発信してほしい。西区や中区のような海に近い地区から見ると、四季の森や昭和チックな中山などは、意外と近場で関心を持たれるので、動画のほかにもPRを検討すべき。

緑区専門家派遣事業で具体的に考えていることはあるのか。

鵜田区政推進課長：区連会でお知らせしたところ、2団体から相談がありました。1つは自治会の活性化についての問合せで、もう1つは障害者施設からパン作りにおけるアレルギー対策の依頼でした。今後、区連会などを通して取り組んでいきたいと思えます。

今野議員：区内にもアレルギー対策の専門家の方がいる。

自治会の活性化をテーマにするのは非常に良い。何か考えていることはあるのか。

鵜田区政推進課長：現在、実態調査中で、結果がまだ出てないので、今後自治会とも協議のうえ、子育て中の世代などをターゲットとして重点的に呼びかけ、地区内でそういう方々が集まりやすいイベント等を検討していこうと思っています。

【27 緑・芸術文化事業】

斉藤議員：緑区役所リニューアルオープンに合わせた文化振興事業の一方で、公会堂の再開後のみどりアートパークの状況が懸念される。大分浸透してきているが、地元の施設という落とし込みが薄いと感じている。来年度の音まつりに絡めて、アートパークで地元的な取組ができるとよい。

名取区長：文化観光局の補助事業は、施設対象のものもあるので、活用してもらい、長津田ジャズまつりのような地元イベントで、拠点があアートパークになるよう、指定管理者と十分意見交換していきたいと思っています。

齊藤議員：長津田ジャズまつりは年齢が高めの方が中心なので、今後はもっと若い世代にアートパークに親しんでもらえる仕掛けを検討してもらいたい。

高橋議員：アートパークは、優れた音響効果やピアノもあるので、音まつりに合わせて、クラシック・ヨコハマを誘致したらどうか。

【32 地域振興事業】

齊藤議員：自治会加入促進モデル事業について、区内自治会の加入状況の実態を資料でいただきたい。また、実情に合わせた加入促進策の考え方を教えてほしい。

鴫田区政推進課長：現在、十日市場町自治会をモデルとして、班ごとの加入状況を班長さんに記入してもらったところです。本年度はそれを地図情報に落として、GISを使って統計資料が取れるようにし、来年度は地元と一緒にターゲットと活動内容を検討したいと考えています。

齊藤議員：それを基礎としながら、窓口業務のところを大事にして、ごみの分別の啓発も含め早急に取り組んでほしい。自治会の存在意義は究極のテーマである。マンションや新興住宅街で、十日市場町のようなもともとまちづくりに取り組んできた自治会も参考事例となると思う。

今野議員：自治会で管理しているごみ集積場を自治会未加入者が使用しているが、加入者専用にすることは可能か。

石倉資源化推進担当課長：環境事業推進委員も各自治会から1人以上出ているので、ごみ集積所の維持管理は自治会の皆様が担ってくださっていますので、そういうご意見も耳にしますが、実際には難しいところです。

今野議員：ごみ集積場の管理費用は、自治会から支出されていることが多いので、そこにごみを出す以上応分の負担と協力が必要ということを前提に考えるべきだ。

【36 区民への情報提供事業】

齊藤議員：広告スペースの削減による収入減はどれくらいか。

名取区長：約100万円の収入がありましたが、印刷製本費の契約額が下がりほぼ同額の予算残が出ています。また、広告内容が墓地や遺産相続に偏っていることもあり、情報発信のスペースを大きくとるため、このような判断をいたしました。

【温暖化対策プラス事業】

	<p>今野議員：長津田地域ケアプラザ以外の施設はLED化されているのか。</p> <p>青木福祉保健課長：他のケアプラザは、ほぼ未実施です。工期を設ける必要もあり、施設側と相談したうえで今回は長津田を選定しました。</p> <p>今野議員：今後それぞれやっていくということか。</p> <p>青木福祉保健課長：原則的に大規模修繕に合わせて実施をしていきたいと考えています。</p> <p>【その他】</p> <p>斉藤議員：平成 27 年度終了事業の環境に配慮した雨水調整池の維持管理検討事業は、先に区が頑張り、道路局主体事業に展開した区づくり予算のよい例である。もっとアピールしてほしい。</p> <p>名取区長：区で気付いた課題について、まず区が取り組み、それを全市的に発信して市全体で対応していくという、まさに区づくり推進費のモデルになると思いますので、アピールしていきます。</p> <p>村田土木所長：この事業は道路局に移管しますが、地元とは今後も関わっていくつもりです。今年度は対象を小学校としましたが、これからはもう少し広げていきたいと考えています。局と連携し、緑区だけでなく全市展開で輪の広がりを期待して取り組みたいと思っています。</p>
<p>備 考</p>	<p>(資料)</p> <p>1 平成 28 年度第 1 回区づくり推進横浜市議員会議 (緑区) 次第</p> <p>2 平成 28 年度 個性ある区づくり推進費 予算案</p>